

犬山市下水道事業 経営戦略 (令和2～11年度) <概要版>

1. 下水道事業の現状

- ◆下水道管きょにおいては、耐用年数（50年）を超えたものは、現時点では存在しませんが、既存団地より移管を受けたものの一部には耐用年数に近づくものが存在します。
- ◆不明水の割合が増加傾向にあります。（過去5年間の平均値に対し令和元年度は3.1%増）
- ◆今後、管きょの維持管理の増加や人口減少に伴う使用料収入の減少などにより、経営環境は厳しさを増すことが予想されます。

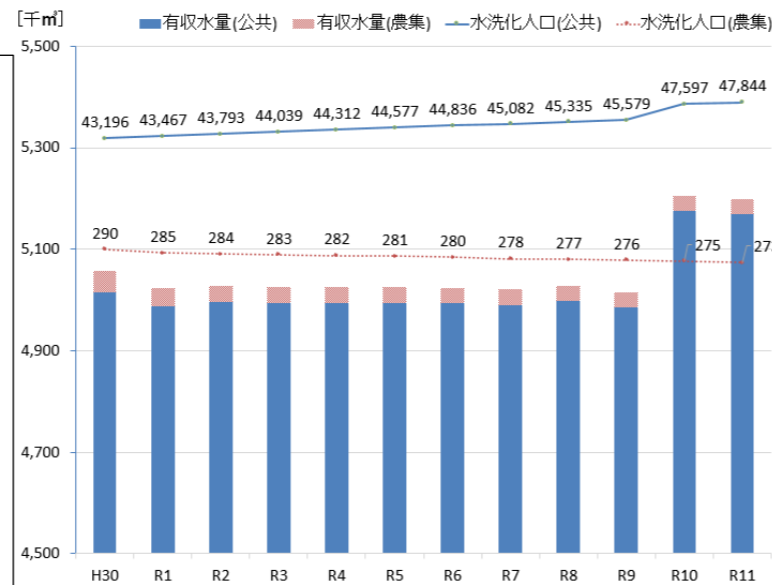
2. 将来の事業環境

(1) 水洗化人口と有収水量

- ◆水洗化人口^{*1}は供用開始区域の拡大により増加していく見込みですが、節水機器の普及等により年間有収水量^{*2}はほぼ横ばいで推移すると予想されます。
- ◆令和10年度に予定されている前原台団地の一斉切替えにより、一時的に増加する見込みです。

	R1	R11	比較
水洗化人口(人)	43,752	48,117	+4,365
有収水量(千m ³)	5,024	5,200	+176

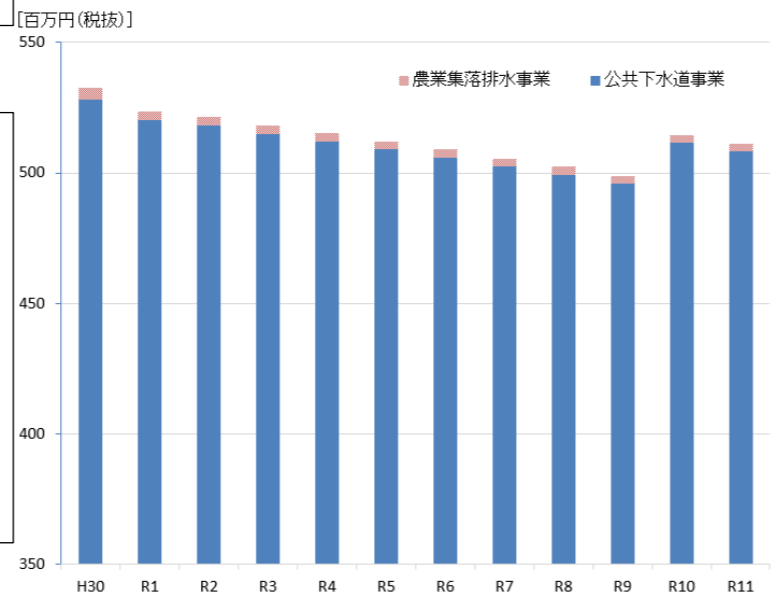
*1 水洗化人口…下水道へ接続している人数
*2 有収水量…使用料の対象となる水量



(2) 使用料収入

- ◆使用料収入については、使用水量の少ない世帯が増加していくため、減少が予想されます。
- ◆令和10年度に予定されている前原台団地の一斉切替えにより、一時的に増加する見込みです。

	R1	R11	比較
使用料収入(百万円)	524	511	-13



まとめ

使用料収入の減少

- ・普及拡大による使用料収入の確保
- ・企業債償還金、支払い利息の減少

- ・経費の削減・事業の効率化
- ・一般会計からの繰入金の継続

計画的な整備・維持管理

3. 投資・財政計画

管きょ整備と維持管理を両立

- ◆公共下水道整備は、市街化区域及び前原台団地について計画的に進めていきます。上記以外の計画区域については、今後、整備の在り方について検討をしていきます。
- ◆五条川右岸処理区の坂下・上坂地区の管きょ整備については、令和7年度に、五条川左岸処理区の前原台団地管きょ整備については、令和9年度に完了することを目標としています。
- ◆下水道施設については、維持管理を計画的に進め、投資費用の平準化を図っていきます。
- ◆管きょの維持管理については、ストックマネジメント計画等に基づく更生工事による長寿命化及び老朽化による更新の両面にて進め、増加傾向にある不明水の削減を図り、効率的な事業運営に努めます。

経費の削減や事業の効率化により、現行使用料を維持

- ◆現時点では、経費の削減、事業の効率化及び未接続世帯への普及活動の強化により使用料収入を確保し、現行使用料の維持に努めます。
- ◆使用料収入の減少が予想される中、施設更新による費用が必要となるため、適正な使用料体系について研究していきます。

企業債残高、繰入金は減少

- ◆企業債償還金及び支払い利息については、借入額の大きな企業債の完済及び借入利息の低下により減少していく見込みです。また、企業債残高についても、償還が進み減少していく見込みです。
- ◆企業債償還金及び支払い利息の減少により、一般会計からの繰入金は減少していく見込みです。
- ◆企業債の発行は、将来負担が過大にならないよう、バランスのとれた借り入れを行っていきます。

4. 経営戦略の検証・更新

- ◆毎年度の決算後に実績の比較を行い、実績と大きく乖離する場合はその原因を分析します。
- ◆5年ごとに経営分析などの再検討を行い、必要に応じて計画の見直しを行います。